

＊＊重要＊＊ W/Cミータの操作上の注意事項

1.MT-400の設置

①電源の確保(AC100V, 15A)	<ul style="list-style-type: none"> ●電源が100V-15A以上あることを確認する。 ●延長コードの使用は厳禁。 ●自動販売機との併用は厳禁。 ●電圧降下が著しく、電源供給が難しい場合、発電機を使用することが望ましい。(単一電源)
②装置の水平出し	<ul style="list-style-type: none"> ●電子天秤内蔵の為、水平出しは必ず実施する。

2.モルタル試料の採取(ウェットスクリーニング) [モルタル分離器MS-2使用]

①モルタル分離器のセット	<ul style="list-style-type: none"> ●試料受け容器及びフルイはあらかじめ湿潤状態にする。 ●生コンクリートを十分搅拌後、ハンドスコップで約一杯(七分目)をフルイに入れる。
②分離時間 * 河川砂利(40秒以上) * 砕石(60秒以上) * 高強度コンクリート(90秒以上)	<ul style="list-style-type: none"> ●モルタル分離中、目視で5mm~10mmサイズの粗骨材にモルタルが残留している場合は、粗骨材がばらけるまで分離する。 ●高粘性及び硬い生コンクリートを分離する場合は、練りサジを使用してばらけさせると、より早く分離できます。
③分離回数とモルタル試料の保管 * 分離回数:最低3回 * モルタル試料の保管	<ul style="list-style-type: none"> ●モルタル試料のバラツキ抑制及び、再試験が実施できるように、最低3回は必要です。 ●ウェットスクリーニング終了後、試料受け容器中のモルタルの水分蒸発及び、雨等による水分混入を防ぐ為、ぬれタオル等で覆い、状態を保持する。

3.モルタル試料の乾燥(試験開始)

①試料受け皿のセット	<ul style="list-style-type: none"> ●試料受け皿が濡れていないか確認する。 ●試料受け皿の底面(ヒータープレートと接する面)に砂、ゴミ等が付着していないか確認する。(乾燥不良の原因となります) ●ヒータープレート上に砂、ゴミ等が付着していないか確認する。(乾燥不良の原因となります)
②モルタル試料の計量	<ul style="list-style-type: none"> ●モルタル試料約115gを、試料受け皿に入れた後、必ず試料受け皿を取り出し、皿をゆすりながらモルタル試料を平らにする。 ●試料受け皿を取り出さず、練りサジ等でならすのは厳禁。 ●計量中は絶対装置をゆらさない。
③モルタル試料の乾燥 * モード切替 L: 単位水量169kg/m ³ 以下 H: 単位水量170kg/m ³ 以上	<ul style="list-style-type: none"> ●単位水量が170kg/m³近辺の場合は、乾燥不足及び突沸が起きる可能性がある為、Hモードで乾燥する方が望ましい。 ●高強度コンクリート、高流動コンクリート及び高性能AE減水剤を使用している生コンクリートは突沸が発生しやすい為、Hモードで乾燥する。

④乾燥試料の目視	<ul style="list-style-type: none"> ●試験終了直後、上フタをあけた時に乾燥試料より水蒸気が発生したり、試料が生渴きだった場合は乾燥不足ですので電源の電圧及び試料受け皿の底面、ヒータープレート上に異物が無いか確認し、再試験を実施する。
⑤連続測定及びヒーターブレートの冷却	<ul style="list-style-type: none"> ●連続測定する場合は、試験終了後、付属の冷却容器を使用しヒーターブレートを冷却します。(冷却容器に水を7分目程度入れ、ヒーターブレートの上に乗せます) ●ヒーターブレートの温度が40°C以下に下がれば測定可能です。

4.データ入力

①コンクリートの指定事項	<ul style="list-style-type: none"> ●小数点第2位まで入力する項目があり、桁を間違えないよう注意する。
②示方配合	
③試験値 *練置き時間 *細骨材の吸水率	<ul style="list-style-type: none"> ●生コンクリートの練り始め開始から試料乾燥開始までの正確な時間を入力する。 ●細骨材が複数混合されている生コンクリートの吸水率は下記の計算式より求める。 $\text{※平均吸水率} Q = \frac{(S1 \times Q1 + S2 \times Q2 + S3 \times Q3)}{S1 + S2 + S3}$
④配合入力選択 *標準配合 *修正標準配合 *印字記録	<ul style="list-style-type: none"> ●試験練り、または現場打ち込み時に使用する。 ●現場打ち込み時に使用する。 ●プラントの印字記録データを入力する場合に使用する。 ●原則的には発注者の仕様にあわせます。
⑤粗骨材の構成選択 *碎石粗骨材 *粗骨材(河川砂利)	<ul style="list-style-type: none"> ●碎石を100%使用した場合のみ適用する。 (碎石100%以外は全て粗骨材とする) ●河川砂利、玉碎を使用する場合。
⑥各配合の数値入力	<ul style="list-style-type: none"> ●数値入力後、必ず[入力完]を押す。 ●入力データを訂正した場合も必ず[入力完]を押さないと正しく入力されません。 ●モルタルミキサーで混練りしたモルタルを試験試料とする場合はウェットスクリーニング補正係数は必要ありませんので、データ入力時に碎石粗骨材量及び、粗骨材量の重量を0 [kg/m³]と入力して下さい。

5.運搬

①測定器本体の運搬	<ul style="list-style-type: none"> ●本機器を移動、運搬するときは、本体側面の移動用取っ手を使用して下さい。 ●本機器を移動、運搬するときは、上フタ開閉用取っ手を持たないで下さい。
-----------	---